

青年部だより

社団法人岡山ビルメンテナンス協会青年部広報委員会発行

大阪三水会との合同研修会開催 他地区仲間と初の交流研修Ⅱ青年部会Ⅱ

八月二十八日、岡山ビルメンテナンス協会青年部は、今年度活動計画のメインの一つである合同研修会を実施した。研修は、大阪ビルメンテナンス傘下の若手リーダーグループの会である「三水会」のご厚意と油谷企画運営委員長の尽力で、大阪市内に於て見学交流会として実施された。岡山からは、会員・事務局の総勢一九名がマイクロボスで参加し、現地行動数時間の限られた日程ではあったが、三水会の温い歓迎と友好ムードの中で、有意義な合同研修日程を終了した。



合同研修は、「梅田スカイビル」の見学が主で、一四時に現場に着いた一行を、三水会の植松・下村両幹事らが出迎えてくれたあと、専門案内嬢のガイドで、巨大ビルのおちこちを二時間に亘って見学した。

観光スポットでもあるスカイビルの特徴は、二つの超高層ビルを、百七十米の最上部で、ドーナツ型の空中庭園展望室をつないだ形のユニークさにある。

下は、クリニック、スポーツクラブ、多目的ホール、ショールーム店舗、銀行など外来客相手の階も多い。オフィス用展示階に案内されたが、フリーアクセス床、フリーレイアウトの構造や、カードシステム出入、タッチレスのトイレ室利用……などめざましい機能がたくさんある。

するビルメン仲間も、大変だろうと想像する。労働安全衛生に配慮された明るく色彩豊かな地下設備機械室で出合った整備員、地下通路とガラス一枚へだたれた気密の映像モニター室で、黙々と監視業務に従事していた数名、出入の激しい一階ロビーをさりげなく巡回清掃して行く清掃従事者、ホテルのレス

開会あいさつ

大阪三水会代表幹事

植松良次氏



岡山青年部の皆様、つしやいませ。ここで三水会の設立からの経緯を簡単に

お話させて頂きます。十数年前になりますが、大阪ビルメンテナンス協会の中の主として二世を中心とした若手の勉強会を持つという

ことで発足いたしました。かなり真面目な会で色々と勉強会を開催し、メンバーも二十数名を抱えて活動を実施していたのですが、入会の条件に二世を主としたという項目

があり、拒否反応があり、一応協会活動から離れた任意の組織として三水会という名称で現在に至っております。今では、入会の条件から二世という項目を削除し、若手の方で勉強をしていき

たい、または親睦を深めたい方として、二十四名というメンバーで活動致しております。

活動の主なもの、二方月に一回の例会を持っており、また、例年の行事として、三水会といたしまして、研修会を一回、他の地区の青年部会さんとの交流会を一回、広報誌の発行を三回、そして、福祉作業を一回、会員の活動できる範囲というところで計画しております。

今後一層活動を活発にしていこうと思っておりますので、宜しくお願いいたします。閉会の言葉

岡山青年部副部長 宮下正晴

今日はお忙しい中、わざわざ大阪までお越しくださいました。今回の合同研修は、大型ビルのメンテナンスを中心に、そのビルの運営管理についての見学を企画させて頂きました。

大阪三水会幹事 下村康伸氏

今回の研修会は準備段階で十分時間をなく、本来ならばもっと早くから会員の皆様に参加していただければ良かったのですが、その点次回の際には十分考慮して企画していきたいと思っております。

岡山青年部会 企画運営委員長 油谷直幸

| 期 | 事業 | 予定 |
|----|------------------------|----------------------|
| 4 | 事業報告 決算報告 | ①役員会 ②全体会議 事業計画 予算計画 |
| 5 | 各委員会 | |
| 6 | 各委員会 | |
| 7 | ③役員会 | 各委員会 |
| 8 | 大阪研修会・視察・(OB)三水会との合同研修 | |
| 9 | 各委員会 | 合同研修会の反省会 |
| 10 | 青年部だより第2号発行 | |
| 11 | ④役員会 | ②全体会議 岡大ボランティア |
| 12 | 忘年会 | 青年部だより第3号発行 |
| 1 | ④役員会 | |
| 2 | 各委員会 | 勉強会 |
| 3 | 青年部だより第4号発行 | |

目をまぐるしい社会経済環境の変化の中、昨年十月に産声をあげた青年部会の平成8年度全体会議が四月二十四日岡山商工会議所会議室において、会員二十八名中十八名の出席で開催され、平成七年度の決算及び八年度の予算案等の承認・役員改選、八年度各委員会の行事計画等を参加者全員の討議により次の通り決定した。

尚、役員は全員留任した。

平成8年度 青年部会総会報告

次々と顔が揃い、ざつぱらんな交流の花が咲いた。岡山の参加者も今後教わる機会が多くなる先輩組織のみならず、心から感謝し、再会を約して帰路について。

